

一喜一憂

「一喜一憂」

情況の変化に喜んだり、心配したりすること

藤屋 侃士

(下松市幸ヶ丘)

No.16

キューガーデン展とイギリス陶磁器

8月末まで周南市美術館で開催された「キューガーデン展」は美しく緻密な植物画が中心だったが、もう一つの魅力は18世紀後半の陶磁器だった。

キューガーデンの拡張と発展に寄与したのが国王ジョージ3世の妻であるシャーロット王妃で、彼女が愛したウエッジウッドや王室御用達(ロイヤル・ウオラント)のダービーやウースターの陶磁器が展示されていた。

ロイヤルクラウンダービー、ロイヤルウースターのほうが聞き慣れた名前だ。ロイヤルウースターのロイヤル



1960年代後半のウエッジウッドのバックスタンプ



ウエッジウッド

代物のイギリスの陶磁器—だったりする。

ウエッジウッドの小物入、バラの模様の小皿、ミレニアムプレート。ロイヤルウースターの花の小皿。こんな土産物もあった。

これら海を渡って日本まで来たチャリティーショップでの戦利品は、福祉活動などへの寄付にもなっている。

そして、日本で行くことのできた展覧会への想いをより豊かにしてくれる。

ガラクタが増えるの

は困ったことだが、ストリー性のある物と共に生活するのも悪くない。

の名前を贈った。今回の展示された「蓋付きの深皿(クイーンズウェア)」は、柔らかな白地に緑で植物が描かれた美しい物であった。

また、ウエッジウッドの有名な作品の一つで20世紀の終わり頃まではバックスタンプにも使われてきた「ポートランドの壺」もインパクトがあった。

いずれも18世紀末の陶磁器だが、大切に使用されてきたことを感じさせられ、時代を超えた存在感があった。良い物を長く使い、物を大切に使うイギリスの文化を垣間見たようだった。

イギリスではどの町にもチャリティーショップがある。福祉団体、国際協力団体など様々な非営利団体がチャリティーショップを運営し、ボランティアスタッフが活躍している。人々は、自分が寄付をしたい団体のチャリティーショップに



ロイヤルウースター